

学校 番号	52	学校名	岡谷南 高等学校
----------	----	-----	----------

## 平成23年度学校評議員活用状況報告書

第 2 回学校評議員会 【平成23年11月15日（火）実施】

### 1 実施概要（協議研究事項を含む）

#### (1) 時間・場所

14:30～15:30 授業参観（火曜日、第5時限）

15:45～17:10 学校評議員会

#### (2) 参加者

学校評議員委員6名（1名欠席）

学校職員 校長以下11名

#### (3) 内容

##### ① 学校から今年度の取り組み～前期終了、中間報告～について

- ・ 前期HRアンケート、授業アンケート、保護者アンケートについて
- ・ 平成24年度センター試験出願状況と各学年進路希望調査について
- ・ 生徒指導の前期の指導内容について

##### ② 魅力ある学校づくりについて

- ・ 体験入学における生徒の説明、10月中学校訪問の様子について

### 2 今回の実施に当たって工夫したこと

- ・ 会議の前に授業参観の時間を設定し、直に生徒や授業を参観していただき、ご感想をいただく機会をとった。
- ・ 本校のシンガポール海外修学旅行の取り組みやインタビューの観光局DVDの映像を見ていただき、その修学旅行の様子や効果を理解していただいた。
- ・ 喫緊の課題について、学校の考えを示し、ご意見をいただく機会を設けた。

### 3 今回話題になった事項で特徴的なものとその概要

- ・ 学力向上の強化と開かれた学校づくりに努めて欲しい。教師と生徒の信頼のもと教育を進めていただきたい。携帯電話校内持込の可否について、親の経済的負担や緊急連絡なども含めて弾力的に考えていって欲しい。一人ひとり責任を持って指導をしていって欲しい、地域の代表として岡南の発展を期待したい。
- ・ 授業参観をして感銘を受けた。1年生のクラスは人数が少なく手が入っていて良いと思った。一人ひとり丁寧に教えていただいていると思う。携帯電話については禁止を貫いて欲しいと思っていたが、このことが現状に合っているか疑問に思うようになった。プラス面・マイナス面、利便性など、建前だけの指導はマイナスになると思う。生徒が自分自身の問題として対処し、高校生としての指導のあり方に一貫性を貫いて欲しい。保護者の意見にもあるが、どっちつかずの特徴がない学校ではなく、「魅力、特色のある学校」づくりに一層力を入れて欲しい。どういう観点で行くかを考え、中途半端な進学校の方向ではダメだと思う。
- ・ 生徒の様子は例年と同様な傾向かと思う。 Semester制だけでは特徴と言えるか疑問である。携帯電話については、現状は電車の中では使っている様子も見受けられる。学校で禁止するだけでなく、「授業中は使わない」などルールを定めて校内持込許可をやったらいと思う。
- ・ 携帯電話については生徒達に守らなければならないルール「南高のルール」を作らせて、校内持込の許可をする方向を求めていけばよいと思う。災害時に安否の連絡が取れることは大切である。シンガポール海外修学旅行は大変良いことだと

思う。新入生の春に海外へ修学旅行は出来ないか、将来を考えるといい機会になるのではないか。海外で「見る・聞く・考えること」は良いことである。これからは海外で、英語力は必ず必要になる、英語科の流れをくむ国際教養系を一層発展させていって欲しい。

- 先生方の忍耐強い指導に感謝している。進路指導、セミナー（補習）とか熱心に指導していただいている、1,2年のうちから学習する習慣ができればいいのと思う。岡谷南高校は、どんな学校の推薦があるのか教えて欲しいし、定員割れの原因も推薦入学できる大学が少ない点か、またはそのあたりを中学生にも知らせていないからか。特色ある学校づくりで「セメスター制」、「国際教養系は英語をたくさん学べる」などもっとPRが必要である。携帯電話については、規則を定め、ぼちぼち生徒に持たせてもいいのかと思う。定員割れも、あまり何年も続くと統合問題の再発になってしまう、皆で知恵を出し合って「魅力ある学校」を作っていって欲しい。
- 強歩大会のとき、役員としてコースを巡回したら、どの子も苦しい中でニコニコと笑顔で挨拶をしてくれるととてもいい子で、嬉しかったです。動画サイトへの掲載など他校では事件がありました。南高の生徒はいい子ども達なので、ルールは守れる子どもだと思います。携帯電話の持ち込み禁止は変更し、ルールを作ってやっていって欲しいと思います。交通事故の緊急連絡、地震災害などの安否確認など必要な物なので使い方を指導することをしていって欲しい。
- 推薦入学の実情とその課題について、大学側も一般受験で入学した生徒と推薦入学した生徒の大学での様子を比較して、受験勉強してきた基礎学力のある生徒を評価する傾向がある。その理由は、就職活動する場合の企業が受験勉強してきた努力や経験と学力を評価しているからだそうです。本校の生徒は、3年次秋から本格的に受験勉強に取り掛かり中堅以上の大学に合格する力がつくので、安易にそれ以下の大学の推薦はすすめていないのが現状である。

#### 4 成果と課題（学校評議員会以外の活用状況を含む）

- セメスター制に基づく教育課程も3年目を迎え、その成果が問われている。できるかぎりの支援をしていきたい。
- 本校の魅力づくり、特徴づくりについて、様々意見・要望を取り入れながら、今取り組んでいる仕組みを最大限にいかすような方法を早急にすすめていきたい。たとえば、英語科の流れを汲む“国際教養系”では、少人数で生きた英語をALTと一緒に学ぶことが出来るカリキュラムである点をさらに充実させること。など。
- 本校の評価として、一方で進学結果が重視されている。国公立大学への進学希望者へのきめ細かい指導、難関・中堅の私立大学への進学希望者への指導を一層進めていきたい。ことに地元の信州大学を始めとする国公立大学への合格を増やすべく、進路実現を図る取り組みを重要視していきたい。
- 地元の中学校に対して、願書出願まで、中学校訪問をして「岡南だより」などを配布しながら情報を発信し、本校の良さをアピールしていきたい。学校見学希望者については、教頭間の連絡により、可能な限り受け入れて対応していきたい。